



一年経過のつどい 子どもたちの力が 御船の強さー

4月14日、スポーツセンター（公益財団法人熊本YMCA主催）で、熊本地震1年経過のつどいがありました。会場には、仮設団地やみなし住宅へ避難している人、地域の人たち、消防団、町職員、災害支援のボランティアの人たちが集いました。一部・二部のコンサートでは、優しい声が観客を魅了し、きつかった震災から、たくさんのかたちを乗り越えて、今日を迎えられたことをかみしめました。復興に向けたメッセージを坂本一樹さん（御船小5年）と本田レイナさん（御船中1年）が発表し、将来の夢ーそして震災を体験して、という大人になりたいかを語りました。つどいの終わりは、集まった子どもたちが「多くの支援を忘れずに、家族、地域、仲間との絆を大切に生きていきます」と誓いの言葉を述べました。



MIGIWA
ー神奈川県横浜市出身のシンガーソングライター
日本や世界各地で活躍している。現在、被災地での音楽活動で人々に勇気と元気を与えている。（敬称略）



21時26分になると、鐘を鳴らし、静かに黙とうを捧げました。



マクマリー・ジョゼフ・デヴィット Jr
ー平成音楽大学生に通っている。震災で体験したこと、そして人の心の温かさを改めて実感したことを透き通った声で弾き語りする。（敬称略）



復興祭 あの時をー 震災を忘れない

4月9日、地震を忘れない！地震に負けない！御船町復興祭が恐竜博物館内交流ギャラリーで開催されました。これは、御船町の復興を願う有志ら「オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト」（福味総一郎会長）が主催したもの。福味会長は、「この復興祭は、新しい御船町をつくる第一歩」とあいさつ。式典には、くまモンも応援に駆けつけ、くまモン体操をみんなで踊り、会場を盛り上げました。基調講話では、熊本県立大学理事長の五百旗頭真さんによる阪神淡路大震災や東日本大震災を踏まえた地震や断層の話、支えること、支え合うことの重要性などの講話がありました。パネルディスカッションでは、4人の代表がそれぞれの分野で発表し、その中で吉本敏治総務課長は「震災時における情報共有が課題。今後は復興計画に基づいて復興を進めていく」と話しました。最後は、この熊本地震で学んだこと、この御船で起こったことを振り返り、後世に伝えていかなければいけないことを再確認し、「オールみふね」で御船を復興することを共同宣言しました。



- 1_ 起震車で実際に震度7の揺れで、どういう行動がとれるか体験する参加者。
- 2_ 駆けつけてくれたくまモンと一緒にくまモン体操！子どもから大人までみんなで踊り、元気づけてもらいました。
- 3_ 被災写真で当時を振り返る様子。